

# 西来寺報

二〇一七年 秋  
第二十七号

## 真宗本廟収骨について

さる、5月14日に前任職の真宗本廟収骨を致しました。

真宗本廟収骨は相統講の精神により、法義相統「真宗の教えをいただき伝えてゆくこと」と本山護持のため一定のご志納をお納めしていただくと、東本願寺の御影堂に分骨することが出来ます。

参拝接待所にご遺骨の一部を持って行き、7センチ四方の桐箱に移し替えて、御影堂の親鸞聖人御真影のまします須弥壇の下に安置致しますので、かつては須弥壇収骨（しゅみだんしゅうこつ）といっていました。寺族住職や敬虔な門徒さんが、昔から行っていました。また本廟収骨とは別に親鸞聖人の墓所である大谷祖廟への納骨もあります。聖人の教えに出会われた多くのご門徒さんの御遺骨が納骨されています。



ご同行して下さった皆様と一緒に

前任職の亡くなった日より一年以上の月日がたつてしまいましたが、やっと本山に納骨できました。この一年の間、前任職の死が私にとって限られたいのちをどのように生きていくのか、問うている様に思われます。教えとは言葉に限られていないのですね。  
尚、本廟収骨については、志納額、日時などの規定がありますので、住職にお尋ね下さい。



## 報恩講のお知らせ

### ひろさちや先生再演！

生きることに不安の多い時代  
どういう心で過ごせばいいのか  
お話していただきます

平成29年報恩講

十月二十九日（日）

法要開始午後一時

講演開始午後二時十五分

終了午後四時

講題 「自然（じねん）」

いいかげんをいきる」

今年の報恩講で先生にしてもらってお話はどんな内容が良いだろうと話し合いをした中で、現代の私たちに「いいかげん」に生きることが出来るかなさすぎるのではないかとという意見ができました。それは言い換えればなんでも自分で努力してなんとかかなると思ひ込んでいるのが現代の私たちだということです。

「自然（じねん）」とは意識して手を加えずに事態が進むのに任せること。そのまま、ということ。実は、ひろ先生の著書の中に『いい



撮影 / 児玉成一

いかげん」のすすめ』という本があります。その中で先生は次のように仰っています。

——『人生は旅です。そして人生の旅の要領は「いいかげん」です。いいかげんのペースを身につけたとき旅は楽しくなるでしょう。』『いいかげん』のすすめ』著ひろさちや・PHP文庫）

人生という旅が楽しくなるような、お話が聞けるに違いありません。是非、ご参加ください。

### 募集 ボランティア募集

ひろ先生とお話して頂けるかも！

ボランティアを募集しています

10月27日（金）10時から16時ころ

本堂の掃除及び飾り付けなど準備

10月29日（日）10時から18時ころ

報恩講当日の運営

お食事をご用意します。御参加頂ける方は西来寺までご連絡ください。

### ひろ先生を迎えるにあたり

坊守 大塚睦子

今年の報恩講は昨年引き続きひろ先生に講演して頂きます。昨年感動的な講演を覚えていらつしやる方も多いのではないだろうか。「またひろ先生のお話が聞きたい！」という多くのお声を頂き、それに応えさせていただく形で、本年もひろ先生にお願いいたしました。

私（坊守）が先生の講義を受けていた御縁で西来寺報恩講での講演をお願いしたわけですが、実はひろ先生との関係は、最初はこんな感じでした。

ひろ先生は忘れてしまったかもしれませんが、初めての講義で、ある古代インド語の訳（やく）について意見が合わなかったのです。双方譲らず、最後には口喧嘩のようになってしまいました。最初の出会いはそのような感じでしたが、何度も講義を受けていくに従って、私は先生の信じられないような広い知識とそれに基づく大胆さ、そしてあたたかな心に魅了されていったのです。そして最初のころのわだかまりはいつの間にか

消え去っていきました。今ではここから信頼し、尊敬させていただいております。

そして実現した昨年の報恩講での記念講演でしたが、最後に先生がお客様への思い出を語って下さり「影があつて初めてものが美しく見える。お母ちゃん、いっぱい苦労してるやろ。それが御浄土への立派なお土産になるんやで」と本堂いっぱいの人々に語りかけた時、温かく澄み切った幸福感が本堂を包み込んだように感じました。あのなんともいえない不思議な幸福感を今でも思い出します。

またイスラム教への質問に答えて「宗教ではなくて、政治家がそれを自分勝手に利用しているだけ。イスラム教は良い宗教ですよ。私は好きですね」と鮮やかな回答を下さしていました。私はこの一言を聞いただけでもこの講演会をやつて良かったと胸にきました。今年もひろ先生をお呼びできて本当に幸せです。

なお、今年の報恩講は都合により10月29日になります。何と日曜日です！ 皆さんお楽しみに！ 合掌

### 知っていますか？

#### 食前食後の言葉

皆さん食事の前に「いただきます」といつていますか？ なんといつていますか？ それともすぐ食べますか？ 実は、真宗には食前食後の言葉というものがありません。

#### 食前の言葉

み光のもと

われ今さいわいに

この浄（きよ）き食をうく

いただきます

#### 食後の言葉

われ今

この浄（きよ）き食を終わりと

心ゆたかに力身にみつ

ごちそうさま

良かったら称えてみて下さい。お食事がより美味しく感じられるかも！ レッツ・トライ！

### 御蠟燭の色について



お盆に棚経に伺つた際に門徒さんから、御蠟燭の色についてご質問を受けました。その時にちゃんとお答えできなかったもので、この紙面を借りてお答えさせていただきます。この機会にぜひ皆さんも覚えておいてください。

まず真宗では、金・銀・白・赤（朱）の四色の蠟燭を儀式に使います。金や銀は報恩講などの特別な儀式に用いるので、一般的に使うものは赤か白の蠟燭を用います。

白は葬儀から49日までの儀式に使い、故人の死への悲しみを表します。そしてそれ以降は、赤の蠟燭を用います。これは亡くなられた方がご縁として、残された私たちが仏法にふれ、念佛申す身になったよろこびを表現しているのです。

蠟燭の色にはちゃんと意味があったのです。勉強になります。ご質問に感謝！